



# GAKKAN GAKUFU 42



# 情報学環 ダイワユビキタス学術研究館

## Introduction

この度、大和ハウス工業株式会社様より、東京大学の教育研究に資するため、本郷キャンパス内に、教育研究棟「ダイワユビキタス学術研究館」をご寄贈頂いた。当館は、2012年10月に着工し、約1年半の工期を経て、この2014年4月に完成した。2014年4月21日に本学側への引き渡し完了し、現在情報学環では当館における教育研究を開始すべく、着々と準備を進めている。

これから当館では、ご寄贈のご趣旨に沿い、まず第一に、総合分析情報学コース及びユビキタス情報社会基盤研究センターにおける、ユビキタスコンピューティング分野の教育研究を実施する。第二に、大型空間物を、コンパクトな空間でユビキタス技術を駆使し

て提供する「ユビキタス空間物アーカイブ」を設置し、世界中の若者の教育に役立てたいと考えている。

当館の建築にあたっては、坂村健教授を責任者として建物のプロデュースを行い、更に建物の意匠設計を工学系研究科・隈研吾教授が担当し、東京大学が一致協力した体制をとることができた。今後、こうしたご寄贈の趣旨をいかし、世界に誇る研究成果と、世界で活躍できる人材の輩出に向けて、取り組んでいきたい。

最後に、本館をご寄贈頂いた、大和ハウス工業株式会社に感謝申し上げますとともに、情報学環の関係教員の皆様、事務の皆様、また本部施設部等、多くの関係者、ご協力頂きました学内外の皆様にも深く御礼申し上げます。

## 記念式典



2014年5月14日（水）に、この新棟を会場として、「ダイワユビキタス学術研究館・竣工記念式典」が開催された。午前11時～12時には、報道関係者にお集り頂き、プレス発表およびプレス向けの内覧会を実施した。

メインエントランスにおいて、樋口武男・大和ハウス工業株式会社代表取締役会長、須藤修学環長、坂村健教授、隈研吾教授（工学系研究科）によってテープカットが行なわれた。引き続き館内の内覧会を実施したあと、3階のダイワハウス石橋信夫記念ホールにおいて、補足説明や記者との質疑応答を実施した。

引き続き、13時～15時に、坂村健教授、隈研吾教授による記念シンポジウムを開催した後、15時30分から記念式典を開催した。大学を代表して濱田純一総長、寄贈者を代表して大和ハウス工業の樋口会長からご挨拶いただき、坂村健教授、隈研吾教授による当館のご説明のあと、濱田総長よりダイワハウス工業株式会社に対し、今回の寄贈に関する感謝状が贈呈された。その後、式典出席者への内覧会のあと、祝賀会を行なった。学内外から多くの方々にお越し頂き、盛大に終了した。



# 施設紹介

## キャンパスに調和したデザイン (1)



春日門から構内へと続く通路は、懐徳館の庭園を借景としキャンパスの新しい交流拠点となる。構内通路側の外壁は不燃処理を施した杉板を用いたウロコ状のファサードを形成し、従来のキャンパス建築にはない柔らかく暖かい表情を作り出している。

## キャンパスに調和したデザイン (2)



隣接する懐徳館庭園側へのファサードには、日本を代表する左官職人である挟土秀平氏による透過性を持つ特殊な土壁を配し、日本庭園と建築との融合を図っている。

## ユビキタスコンピューティング環境



ユビキタス学術研究館の名前に相応しい最先端のユビキタスコンピューティング技術を用いたスマートビルとなっている。館内の温度、湿度、照度、空気の流れ、モノや人の状況を自動認識し、環境、セキュリティ、エネルギー消費の最適化等を行う。

## ダイワハウス石橋信夫記念ホール



3階には、126席からなるホールとして、ダイワハウス石橋信夫記念ホールが設置され、様々な領域にわたる研究・教育兼情報発信の拠点として機能する。情報学環だけでなく、学外の主体が実施する学術シンポジウムやイベントのための利用も可能である。

## ユビキタス空間物アーカイブ



従来アーカイブすることが難しかった大型の空間物を、デジタル情報技術を駆使してコンパクトな空間に展示する。地下1、2階吹き抜けのギャラリーに、大型スクリーンへのマルチプロジェクター投影を行い没入感のある実物大映像展示を実現する。

## カフェ



1階に設置されているカフェコーナーでは、懐徳館の庭園の緑を間近に見ながら、屋内外の空間を利用して、くつろぎのひとときを過ごし、教職員や学生の交流を深めるためのスペースを提供している。本郷キャンパス初の「和カフェ」である。

## 着任教員自己紹介

### 影浦 峽 [かげうらきょう] 教授



教育学研究科から流動教員として来ました。記号や言語が記号や言語として存在することを可能にする物理的・社会的な条件を高い解像度で記述することが研究の基本モチーフです。より具体的な研究としては、集合としての図書や言葉のかたちと配置の記述、それを前提とした言語活動、とりわけ最近では翻訳を支援するシステムの構築とそれを通じた翻訳知の外的アーカイブ化と活用方法の開発などを行っています。直接専門とは関係ありませんが、原発事故後に跋扈した壊れた言葉にも反応し、いくつか関連する社会活動にも関わっています。学環という環境に慣れるまで手間取るかもしれませんが、どうぞよろしくお願いたします。

### 真鍋 祐子 [まなべゆうこ] 教授



情報学環は今回で二度目の流動になります。専門は朝鮮地域研究で、民間信仰、社会運動、伝承、観光など、「ナショナリズムとグローバリズムの〈ねじれ〉」をキーワードに、やや雑食気味の研究をしています。最近は在日の知識人や研究者の「知」の形成という問題に関心を寄せています。また、前回の流動でお世話になった時に学環の先生や学生と始めた「光州研究会」が機縁で、韓国民主化運動の日韓連帯にかかわる研究にも少しかかわり、当時の関係者の資料整理や聞き取り調査などにも着手したところです。学環は学恩のあるところで、それをなんとか成果にしてお返ししたいと考えています。どうぞ宜しくお願いいたします。

### 金井 崇 [かないたかし] 准教授



総合文化研究科から流動教員として情報学環に配属されました。専門はコンピュータグラフィックス (CG) とその応用です。中でも、形状モデリング、物理法則アニメーション、CAD/CAM 等の研究を行っています。特に、リアルタイム処理のためのCGアルゴリズムの高速化や、新しい形状表現手法の創出・考案にこだわって研究をしています。なお、研究の本筋とは外れますが、私は工学部精密機械工学科 (現精密工学科) 卒で、当時は、改築前の工学部 2 号館の地下にあったプレハブ小屋の研究室で修士まで過ごしました。元の所属とは違いますが、こういう形で工学部 2 号館を再び利用することができるであって、大変感慨深いものがあります。

### 前田 幸男 [まえだゆきお] 准教授



私は 2006 年から 5 年間で流動教員をしていましたが、本年度からまた情報学環に所属することになりました。今回は異なる分野の先生方や大学院生の皆さんから教えてもらうことが多かったように思いますが、今回は私の専門分野から学環・学府の研究・教育に貢献することに力を注ぎたいと思います。専門は政治学ですが、主に選挙調査の個票データと世論調査の時系列データを分析して論文を書いています。これらのデータは有権者の政治的判断の記録に他なりません。政治的文脈やマスメディアの報道内容と照らし合わせることでより理解が深まります。その観点から、最近は国会会議録や新聞報道等のテキストデータの内容分析にも関心を持っています。

## Congratulations !!

### 学際情報学府 学位記授与式



3月24日、有明コロシアムにて大学全体での学位授与式が挙行された。午後より、福武ラーニングシアターにて学際情報学府の学位授与式が執り行われた。修士課程修了者 72 名、博士課程 4 名 (年度内既修了者 3 名を含む) に須藤学環長より学位が授与され、学環長と石崎専攻長から祝辞が送られた。

### 優秀修士論文発表会

学際情報学府学位授与式に引き続き、福武ラーニングシアターにて優秀修士論文発表会が開催された。専攻長賞を受賞した佐藤

寿昭 (社会情報学コース)、近藤和都 (文化人間情報学コース)、李翔 (総合分析情報学コース) と、学環長賞に輝いた吉田成朗 (先端表現情報学コース) の 4 名がそれぞれ受賞論文について発表を行った。



### 総長賞受賞



吉田成朗 (先端表現情報学コース) が修士論文「身体反応のフィードバックによる感情体験の操作」の研究業績により、平成 25 年度東京大学総長賞 (学業) を受賞した。3月20日に小柴ホールで行われ

た授与式にて濱田総長より表彰を受け、受賞業績に関する研究発表を行った。

### 情報学環教育部修了式



情報学環教育部は、情報・メディア・コミュニケーションについて情報学の体系的な教育を行う、ユニークな学際教育プログラムである。3月19日、福武ホール・ラーニングスタジオで、修了生 29 名に学環長より修了証が手渡された。教職員や現役の研究生も列席するなか、修了生たちは笑顔でそれぞれの健闘をたたえあった。

## 東日本大震災復興を考える公開シンポジウム



3月9日、福武ホールで開かれたシンポジウムの模様。登壇は早野龍五・理学部物理学教授

東京大学大学院情報学環伊東研究室では、東日本大震災から3年を期に、文学部東日本大震災復興支援哲学会議（一ノ瀬正樹座長）と共催で3月9日（日曜日）、11日（火曜日）の両日、公開シンポジウムを開催した。

9日は黒川清・福島原発事故国会事故調委員長から3.11以降日本のガバナンスを問う問題提起、カレスタス・ジュマ ハーヴァード大学ケネディ校教授による3.11以降の日本に期待される国際イニシアティブのメッセージなどを受け、早野龍五・理学部物理学教授、鈴木寛・公共政策大学院教授、一ノ瀬正樹・文学部哲学教授らが慎重に討議を行った。休憩を挟んで塩澤

昌・農学生命科学研究科教授による福島農業土壌の残留放射能、医科学研究所の大学院生でもある坪倉正治・南相馬総合病院医師によるホールボディカウンター検診結果など被災地現状の報告を受け、西垣通・情報学環名誉教授、山脇直司・総合文化研究科名誉教授、人文科学研究科大学院生の丸山文隆君を加え、一般市民の立場で現下の状況と如何に対峙すべきか、ディスカッションが展開された。

3月11日は、残留放射能問題に対処する市民社会の倫理に問題を特化して小中陽太郎・プラザファウンデーション理事長（作家、元ベ平連）、山脇教授、一ノ瀬教授、鬼頭秀一領域創成科学研究科教授、丸山君らのメンバーにフロアからの意見を交え、充実した議論が展開した。全体の制作・進行は東日本大震災復興支援哲学会議事務局長の伊東が務めた。（准教授・伊東 乾）

## 角川文化振興財団 メディア・コンテンツ研究寄付講座 開設記念シンポジウム「メディアミックスの歴史と未来」

2014年3月11日、福武ホール・ラーニングシアターにおいて、角川文化振興財団メディア・コンテンツ研究寄付講座開設記念シンポジウム「メディアミックスの歴史と未来」が開催された。「東アジア・アニメーションの『起源』」と題された第一部では、大塚英志（東京大学）と吉見俊哉（東京大学）をコメンテーターと司会とし、秦剛（北京外国語大学）、佐野明子（桃山学院大学）、キム・ジュニアン（東京造形大学）の各氏がそれぞれ、中国、日本、韓国における初の長編アニメーション作品『鉄扇公主』、『海の神兵』、『ホンギルドン』を比較・分析することで、東アジアにおけるアニメーション表現の成立を可能とした歴史的ダイナミズムを、とりわけ米国アニメーションの受容過程という観点から検証した。

第二部「創造と産業が拮抗するとき」では、角川歴彦氏（株式会社KADOKAWA）による、サブカルチャーとメディア・プラットフォームに関する講演に続いて、川上量生（株式会社ダウン

ゴ）、マーク・スタインバーグ（コンコルディア大学）両氏を招き、未来のメディアとコンテンツ流通の在り方を「メディアミックス」という観点から議論をした（司会・阿部卓也・東京大学）。

本シンポジウムは、日本のアミューズメント・メディアに対し学際的研究を試みる寄付講座の開設を記念したものである。以降、三年間にわたって、シンポジウムや研究会の開催、海外大学および東京大学の学生を対象としたサマープログラムの実施を通じて、この新しい学問領域の開拓を目指す。（特任准教授・滝浪佑紀）



## 人事異動

### 配置換（転入）

4/1 影浦 峡 教授（教育より）  
真鍋 祐子 教授（東文研より）  
金井 崇 准教授（総文より）  
前田 幸男 准教授（社研より）  
川上 玲 助教（情報理工より）

### 配置換（転出）

3/31 大原 美保 准教授（生研へ）  
4/1 金森 修 教授（教育へ）  
池上 高志 教授（総文へ）

佐藤 博樹 教授（社研へ）  
森本 一夫 准教授（東文研へ）  
松山 裕 准教授（医学系へ）  
齋藤 大輔 助教（情報理工へ）

### 昇任

4/1 滝浪 佑紀 特任准教授  
長澤 裕子 特任講師

### 採用

4/1 岩澤 駿 助教  
酒井 麻千子 助教

関谷 直也 特任准教授  
秋葉 雅章 特任講師  
生貝 直人 特任講師  
長内 圭太 特任講師  
会田 大也 特任助教  
一色 裕里 特任助教  
定池 祐季 特任助教  
本田 秀仁 特任助教  
安達 慎一 特任研究員  
李 鉉龍 特任研究員

### 辞任

3/31 金 キョンファ 助教

### 任期終了

3/31 田中 克直 特任講師  
門間 正挙 特任講師  
村館 靖之 特任助教  
和嶋 雄一郎 特任助教  
梅田 雅之 特任研究員  
谷島 貴太 特任研究員  
PADHY SIMANCHAL 特任研究員  
宮垣 英司 特任研究員

### あとがき

学環としては二つ目の研究教育棟となる、ダイワコピキタス学術研究館が竣工しました。隈賢吾設計事務所による斬新ながら環境と調和するデザイン、そして内部はコピキタス研究の成果が組み込まれたスマートビルディングになっています。本郷キャンパスでは唯一の「和カフェ」もありますので、春日門付近にお立ちよりの際はぜひご利用下さい。(暦本純一)

学環学府 42 5. 2014

東京大学大学院 情報学環・学際情報学府

Interfaculty Initiative in Information Studies  
Graduate School of Interdisciplinary Information Studies,  
The University of Tokyo

〒113-0033 東京都文京区本郷 7-3-1

編集委員：暦本純一・佐藤彩夏

mail : [news@iii.u-tokyo.ac.jp](mailto:news@iii.u-tokyo.ac.jp) / <http://www.iii.u-tokyo.ac.jp>